

広報 しばた



2023年(令和5年)

2月

No.736 since1961

燃え盛る炎に 一年の無病息災を願う

正月を締めくくる伝統行事「どんと祭」が町内の神社で行われました。正月飾りを持ち込んだ参拝客は、焚き上げた火にあたりながら、一年間の無病息災や家内安全を願いました。

【1月14日(土) 白鳥神社】

令和5年 柴田町20歳のつどい



1月8日(日)、令和5年柴田町20歳のつどいが船岡中学校で開催されました。

令和4年4月に成人年齢が18歳に引き下げられたことから、柴田町では成人式から20歳のつどいに名称を変更し、例年通り20歳を迎える方をお祝いする式典として行いました。

対象者は、平成14年4月2日から平成15年4月1日までに生まれた489人(男性276人、女性213人)で、当日は266人が出席しました。

会場では晴れやかな装いに身を包み、友人との久しぶりの再会を喜び合う姿や、近況を報告して談笑する姿が見られました。

滝口町長は式辞で「これからの皆さんは、試行錯誤の連続で、順風満帆な人生とはなりません。人生に夢や希望を持ち、社会に通用する能力を身に付ける努力を続けられれば、逆境は乗り越えられるものなのです。何事

20歳のメッセージ



代表 赤松 梨子 さん

思い出が詰まったこの柴田町で、仲間たちと再会できたことに、嬉しさと懐かしさで胸がいっぱいです。私は春から、幼い頃からの夢であった建築士として、社会人の第一歩を踏み出します。これまでの努力が形となる喜びや人のために行動するという少しの自尊心故に、胸が躍る思いです。20歳という大きな節目を迎えた今、社会の一員としての自覚と責任を持ち、精進していく所存です。

この先、それぞれの道を歩む私たちは、一人一人違った考えを持ち、違った方法でそれを表現します。立ち止まり悩んだときには、手を取り合い、互いを補うことで、どんな困難も乗り越えることができるはずです。

最後に、私がここに立てているのは、家族や先生方、地域の方々、仲間たちのおかげです。これからも感謝の気持ちを忘れず成長していくことを約束し、代表の言葉とさせていただきます。 ※一部抜粋

平和な日本に生まれ、柴田町の豊かな自然に抱かれて充実した時間を過ごすことができました。そんな中、私たちの生活を一変させたのが、新型コロナウイルス感染症です。何事にも制限がかかる日々の中、小学生からバスケットボールをしていた自分にとって夢であり目標だった高校総体が中止になるという一番恐れていたことが現実となってしまいました。

新型コロナウイルス感染症はたくさんものを奪いましたが、私たちの目標までも奪うことはできません。20歳を迎え、立場はさまざまですが、私たちは自分の行動に責任を持ち、社会の一員として常に向上心を持って生きていこうと胸に誓っています。

私たちが今日この日を迎えられたのは、支えてくださった多くの方のおかげです。その感謝の気持ちを胸に刻み、一步ずつ前に進み続けることを誓い代表の挨拶といたします。 ※一部抜粋



代表 加茂 慈貴 さん



にも積極的に挑戦して力を磨き、新しい種をまいて、努力という水をかけ、自由という満足の花を咲かせることに全力を注いでください」とエールを送りました。

問 生涯学習課

TEL 5512135

祝 20歳の門出

晴れの日を迎えた出席者の姿をお届けします

※写真撮影時のみマスクを外しています。



20歳のつどいを企画してくれた実行委員会の皆さん

20歳のつどいのために、3か月以上前からビデオレターの撮影や編集などの準備を進めてきた実行委員会メンバー。当日は20歳のメッセージの発表や司会、出席者へのインタビューなどで式典を盛り上げてくれました。





2月に入り冬の寒さが一段と厳しくなってきました。一方で南の方からは春の便りがちらほら届くようにもなってきました。

いつもこの季節の風物詩となっているのが静岡県河津町の河津桜まつりです。例年2月初旬から咲き始める河津桜は、鮮やかなピンク色の花を咲かせます。河津川沿いの桜並木は、花見の名所として毎年全国から100万人もの観光客を集めています。

二つ目の便りは、日本三名園として有名な偕楽園の梅まつりです。水戸藩第九代藩主徳川斉昭公によって造園された偕楽園は領民にも開放され、皆で梅を楽しむ場所として現代に受け継がれています。

年間を通じて花巡りを楽しめるまちを目指している柴田町も早春に彩りを添えるため、食用の白加賀梅が植えられている船岡城址公園の梅畑に、河津桜や寒紅梅を植栽してきました。梅の花の白色と、小枝に密集して咲く寒紅梅の濃紅色、河津桜のピンク色が織りなすコントラストは、偕楽園には及ばないまでも見応えのある景観となっています。昨年、国の地方創生臨時交付金を活用し、梅畑を通り抜けた先に「早春の丘」

早春の丘巡り

を整備しました。これは、コロナ禍で家にこもりがちな生活から里山などを歩くことを新たな生活スタイルとして取り入れ、日頃のストレス解消や健康増進のため、公園内に新たな緑道を整備するという提案が国から認められたものです。おかげさまで、町民の皆さんの健康づくりや、より多くの観光客を呼び込むためのスケール感のアップが図られ柴田町の、魅力の向上につながりました。

仙台からいらつしやったご夫婦からは、「登るにつれて視界が開け、眼下に白石川や柴田町の街並み、さらには太平洋や牡鹿半島を望める早春の丘は大変気持ち良く歩ける」とお褒めの言葉をいただきました。

まちを元気にする手法はいろいろありますが、これからのまちづくりは、国内外から人が集まり賑わうシンボルエリアを整備し、町民との交流を図る中で、町の魅力に触れ、柴田町のファンになつてもらう地域ブランディングこそ有効ではないかと思つていきます。

そろそろ早春の丘では寒紅梅、河津桜、ヒユウガミズキ、トサミズキ、マンサクそしてヒメコブシが咲き、彩り豊かな花風景を楽しむことができるようになりまますので、天気の良い日にはぜひ、散歩にお出かけ下さい。

しばた歴史探訪

第19回 上川名貝塚の縄文人

写真の深鉢ふかばちは、槻木の上川名貝塚から発掘された土器の破片から復元した、縄文時代前期初め頃(約6千年前)のもので、表面全体に縄目の文様(縄文)がつけられ、口の部分に大きな人面が作り出されています。人面は、細い竹などを半分に分けて作った道具で描かれています。また、粘土に植物の繊維が混ぜ込まれていることも大きな特徴で、このような繊維土器は、関東から東北、北海道にかけての地域に広がっていました。

さて、上川名貝塚から発掘された土器は、人面土器としては、全国的に見ても古いものだといえるのだそうです。つながった眉毛にも見える隆起と下にまつすぐ伸びて先端がややふくらむ鼻、丸くくぼめた目、両頬に平行して引かれた太い二本の線は入れ墨でしょうか。皆さんは、この縄文人の顔にどんな印象を持ちますか。「男性、それとも女性」、「どんな人物なのか」など、疑問は尽きません。そして、なぜ土器に人の顔をつけたのかという疑問も。

いずれにせよ、私たちの先祖の顔であることには変わりありません。自然とともに生きるよりほかない人々の生活を想像するとき、この人面土器には、縄文人のいろいろな思いが込められているのだと思います。

園しばたの郷土館

Tel 5510707





健康情報クリップ

なるほど!

みんなの健康ライフ シリーズ99

第99回のテーマは、

「上手に食べて低栄養予防」です。

低栄養とは、健康な体で活動するために必要なエネルギーやたんぱく質といった栄養素が足りない状態を指します。特に高齢者は、食事量の減少、

口腔機能の衰えにより、1日3食を食べていても低栄養状態に陥ることがあります。

少量しか食べられない場合には、バランスの良い食事や品目数を意識することで、栄養改善につながります。また、体重の減少など身体のサインに気づき、早めに対処することが重要です。

低栄養状態が続くと…

- ・認知機能の低下
- ・筋力量の減少
- ・免疫力の低下 など



要介護状態へ陥るリスク増

低栄養チェック

下記の項目に2つ以上あてはまると、低栄養になっている可能性があります。

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> BMIが20未満【BMI=体重(kg) ÷ 身長(m) ÷ 身長(m)】 | <input type="checkbox"/> 好きなものばかり食べている |
| <input type="checkbox"/> アルブミン(血中タンパク質)の数値が 4.0g/dl 以下 | <input type="checkbox"/> 食事をとらないことがある |
| <input type="checkbox"/> 半年間で3kg 以上の体重減 | <input type="checkbox"/> 肉はほとんど食べない |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> 顔色が悪くなったと言われる |

合言葉は「さあにぎやか(に)いただく」

さかな



あぶら



にく



ぎゅうにゅう



やさい



かいそう



に

いも



たまご



だいず



くだもの



栄養状態を良好に保つためには、毎日この10種類の食品を、バランスよく摂取することが大切です。

栄養士からのアドバイス

1日10種類の食品摂取が難しい場合、まずは7種類を目標に取り組みましょう。いつもの料理に魚の缶詰や卵、豆腐などの大豆製品、乳製品を追加することで栄養価がアップします。

町では、栄養バランスの良いレシピをホームページに掲載しています。



レシピページ

図健康推進課 TEL55-2160

17 パートナースhipで目標を達成しよう



私たちとSDGs 連載⑦

問まちづくり政策課 TEL54-2111

ゴール 17. パートナースhipで目標を達成しよう

SDGsの目標は幅広い分野にわたります。1~16の目標を達成するためには、世界中の企業、団体、個人など様々な立場の人がパートナーシップ(協力関係)を組んで活動する必要があります。

マイバッグの携帯、省エネや節水のための活動、防災グッズや備蓄用食料の準備など、SDGsの実現のためにできることは、ぜひ家族や友達、地域の人たちとも話し合い、一緒に行動していきましょう。

まちかど NEWS

皆さんにとって
より良い年になりますように。



2023年 初日の出 NEWS

1月1日(日)、船岡城址公園山頂と柴田町太陽の村には、新春の初日の出を見ようと多くの方が訪れました。

船岡城址公園ではスロープカーの臨時運行が行われ、太陽の村でも初日の出を見る方のために入場ゲートが開放されました。

当日は天候にも恵まれ、七峰山から昇る初日の出に手を合わせ、一年の無病息災を祈願する姿が見られました。

防災・防犯の決意新たに 合同出初式 NEWS

1月7日(土)、柴田町消防団、柴田町防犯実動隊、柴田町交通指導隊、柴田町婦人防火クラブ連合会合同による出初式が行われました。

滝口町長は訓示で「町では自分たちの地域や命は自分で守るといふ自助の精神を涵養するとともに、各団体の皆さまには消火力、防災力、抑止力の向上に向け一層の精進を切望します」と述べました。



町内の安全を祈願しました。



手作りのイルミネーションも年々パワーアップしています。

しばたの冬を彩るイルミネーション

昨年12月2日(金)から30日(金)まで、船岡城址公園とJR船岡駅前を会場に、「しばたファンタジーイルミネーション2022」が開催されました。

期間中は週末にキッチンカーの出店もあり、例年以上に賑わいを見せていました。

家族で訪れた佐藤さん(北船岡)は、「子どもたちはイルミネーションの迷路が気に入りました」と話してくれました。

広 告

広 告

地域おこし協力隊

平塚隊員が卒業しました

令和2年2月に着任した平塚隊員が、1月末で3年間の任期を終え地域おこし協力隊を卒業しました。平塚隊員から皆さんへのメッセージをご紹介します。



ひらつか ゆたか
平塚 優さん
食を通じて、
起業を目標に
取り組みました。

地域おこし協力隊として、蕎麦屋の開業を目指し着任した3年間。同じ場所に2年以上住むことが無かった自分が、3年間地域おこし協力隊として任期を全うできたのは、町民の皆さんのおかげです。私の人生の中で、一番、人と関わってきた3年間でした。

徐々にリピーターも増えて、「HIRA蕎麦で初めて、蕎麦に何も付けないで食べる美味しさに気付くことができました」と言われた時はとても嬉しかったです。

今後は、HIRA蕎麦を少しずつ成長させ、町内の活動を続けていきますので、ぜひお店に立ち寄ってもらえると思います。と幸いです。

全くの未経験の蕎麦打ちを一から教えてくださった修業先の「手打ちそば花いかだ」の皆さんのお陰もあり、間借り店舗ではありますが、蕎麦屋をスタートす



活動はHIRA蕎麦
HPをチェック

あなたのお店や会社をPRしませんか？

広報 **しばた** 有料広告募集

発行日・発行部数：毎月1日（年12回）発行 16,600部

配布先：町内全世帯および各公共施設、町内外の関係団体

広告の規格：1枠 縦45mm、横86mm

広告掲載料：10,000円／1回（1枠）

募集枠数：広報紙1回につき12枠（広報紙1回につき1者1枠まで）

※枠数に限りがあるため、希望に沿えない場合があります。

掲載基準：「町民に不利益を与えないもの、中立性」などを考慮します。詳しくは、柴田町有料広告掲載要綱をご覧ください。

申込方法：所定の申込書に広告原稿を添えてお申し込みください。申込書などは、町ホームページよりダウンロードできます。

申込期限：2月28日(火)

申問 まちづくり政策課 Tel54-2111 Fax55-4172



告 告

告 告



こうほう 文芸

短歌

川柳

俳句

<p>冬野菜寒さ悴かむ霜降りて 摘み取る美味しき舌鼓なる 榎木 平間 三郎</p> <p>みぞれ止み物干し竿の水玉が 七色輝く昼下がりがかな 榎木 臥竜の娘</p> <p>吾が身をばロボットダビンチに委ねたり 術野にいとむ医師らの気迫 船岡 可沼 妙子</p> <p>若い日を共に過ごした仲間たち 年賀手しまい過ぎ去る時代 四日市場 鳥井崎</p> <p>手術日の朝の検温看護士は 肩に手を置きわたしを解く 船岡 つかのめけいこ</p> <p>船岡の観音さまを陽が指して 明るみはじむわが小世界 上名生 八乙女由朗</p> <p>阿武隈の川面に映る朝焼けが 白鳥染めて初日が昇る 榎木 白石 光子</p>	<p>床屋代満額払うがつりないの？ 来ぬ賀状代替わり知る寒見舞 船岡 小林 夢子</p> <p>北船岡 日下 功</p> <p>古いの家痕跡残し孫帰る 四日市場 鳥井崎</p> <p>お正月月にうさぎが億招く 榎木 加藤 マサ</p> <p>良い天気洗濯物もよく乾き ひとり者友に誘われクリスマス 船岡 阿部美代子</p> <p>昔バナ今のおもちやは充電式 西船迫 後藤 文子</p> <p>初詣階段横目で坂ハアハア 榎木 村上 紫寿</p>	<p>みぞれ降る耕野を北へ新幹線 鬼嫁が福はく内と豆をまき 船岡 可沼 妙子</p> <p>冬障子明かりぬくぬく老二人 曙の雲間に耀く初日の出 船岡 安藤 節子</p> <p>ローバイの光届けよこの地球に 西船迫 安ヶ平奈津枝</p> <p>朝日射す松の枝張る淑気かな 中野西範子</p> <p>石路咲くや風はあなたの声となり 引き絞る弦に全霊弓始 遊佐 徹</p> <p>年玉の靴下・駄菓子・塩羊羹 宝くじ胸に忍ばせ初詣 山家美智子</p> <p>荒れる世や日の温もりに若菜摘む 八回目の年男より来る賀状 三塚 直樹</p> <p>雪しまく母に打たれし夜のごとく 雪嶺に浮かぶ宿木緑藻かな 飛鳥 浪山 克彦</p> <p>朝な夕な凍えるピオラに会いに行き 船岡 沢田 順子</p>
--	---	---

俳句・川柳・短歌に興味があり、こうほう文芸に載せたい方は、はがきなどで2月14日(火)まで応募ください。 図 まちづくり政策課 TEL.54-2111

広 告

広 告

広 告

広 告

「伝える力」を育む我が町の小中学生の活躍

新たな時代を生きていく子どもたちには、自分の考えをしっかりと相手に伝える力が求められます。「伝える力（書く力）」を育み、「一人一人を認める」教育の推進を図ることで、学力向上につなげています。

各校では共通で「どの子どもたちも自分の思いを綴るノートづくりに取り組むこと」、「挙手した子どもたちには発表の機会を与えること」の2点を重点的に取り組み、各校の特色を発揮しながら「伝える力（書く力）」の向上を目指しています。

今回は、子どもたちや先生方が取り組んできた成果を紹介します。

- 町小中学校学力調査において、国語の「書くこと」の分野で、4つの学年（小学校3年、4年、6年、中学校1年）が全国平均を5ポイント以上上回る

- ドコモ未来ミュージアム創作絵画コンクールのデジタル絵画部門5～6年の部で、「ドコモ未来大賞ゴールド」受賞（船迫小6年生）

※絵画部門との2部門の出品数は115,793点、大賞ゴールド受賞者は2部門で10人

- コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に係る
文部科学大臣表彰

船迫中「“幸せが訪れますように” ラベンダーを活用した地域学校協働活動」

- 算数チャレンジ大会2022（県教育委員会主催）

①個人に与えられる「満点賞」受賞8人のうち、槻木小6年生3人が受賞 ※参加児童数1,707人

②チーム対抗戦 第2位（槻木小チーム）

※参加チーム数569チーム（1チーム3人編成）

- 河北新報「声の交差点」掲載（船迫中3年生）

- 柴田郡英語暗唱弁論大会 暗唱の部 優秀賞受賞（船岡中3年生）

- 青少年読書感想文コンクール大河原地区（2市7町）審査会

①自由読書部門で5点が県審査会へ、そのうち槻木中が2点
※応募数1,882作品

②課題読書部門で3点が県審査会へ、そのうち船迫中が1点
※応募数43作品

- 2市7町弁論大会 最優秀賞受賞（船岡中3年生）



ドコモ未来大賞ゴールド受賞「想像の世界」



算数チャレンジ大会第2位の槻木小チーム

〔柴田町教育委員会 教育長 船迫 邦則〕

告 告

告 告

現場第一で信頼される 仕事をしていきます

有限会社 アンドウ産業
安藤 力哉さん (25歳)

今回は、土木工事全般から建築工事、塗装工事などを手掛ける(有)アンドウ産業の安藤力哉さんを紹介します。



本船迫地区で3代続く(有)アンドウ産業。安藤さんは、幼いころから重機や現場で仕事をする家族の姿が身近にあったこともあり、早く仕事に就きたいと考えていました。学校卒業後は、社長でもある父の助言もあり、町外の造園業での修行を経て、アンドウ産業へ入社しました。

土木、建設工事、塗装からリフォームまで幅広く仕事を請け負うことから、作業員として現場で働きながら、多くのことを学んでいるそうで、「自分が不器用なこともあって、仕事を進めることは大変だと感じる時もあります。なるべく失敗をしないように丁寧な仕事を心掛けていますが、失敗したとしても、それを次の仕事に生かしています」と言います。

今まで経験してきた仕事で特に印象に残っていることを伺うと、「町外の大きな幼稚園の外壁塗装工事です。夏休みの期間を使い1カ月ほどかかりました。塗装は自分の得意な分野でしたが、

この工事はデザインに多くの色が使われ、細かい作業も多く苦労しました。子どもたちが綺麗になった幼稚園を見て喜んでいたら聞いて、とても嬉しかったです」と話し、「この仕事のやりがいは、塗装工事にしても、土木・建築工事にしても、自分が手掛けた仕事は長く形に残ることにあります。だからこそ下手な仕事はできないという責任を感じます」と話してくれました。

今後について、「大きな目標としては、会社の評判を上げていくことです。そのためにも自分自身スキルアップして、仕事を安心して任せてもらえるような社員を目指したいと思います」と力強く話してくれました。

休日には、年間300杯以上も食べる大好きなラーメンの食べ歩きと、趣味の釣りに没頭することが一番の楽しみだそうです。会社の将来を担う社員としてこれからも頑張ってください。



モニタリングポストの設置確認をする安藤さん。



有限会社 アンドウ産業
柴田町大字本船迫字上町22
Tel.54-1229
昭和45年創業。一般土木工事、建築工事、塗装工事から造園まで幅広い分野の工事を手掛ける。従業員5人

人口と世帯数
(令和5年1月1日現在)



36,972人
(前月比14人増)



18,405人
(前月比3人増)



18,567人
(前月比11人増)



16,244世帯
(前月比16世帯増)

※平成24年7月9日の住民基本台帳法の改正に伴い、外国人を含む人口と世帯数となります。